

# 夜明けを待ちながら

五木寛之 東京書籍

\* ゴーリキの言葉～人生というものは酷いものだ、しんどく・無残なものだけど、だからと言って、その人生を投げ出してしまふほどひどくはない人は孤独だし、どんなに親しい仲間や優しい家族がいても最終的には一人で死んでいくのです、そういう状態を考えると物凄く不安で何か恐ろしいけれど、取敢えず今日一日・一生を生きようじゃあないか・・・

## \* 死から“生”を考える

人はわざわざ自殺しなくても必ず死ぬのだから死の方から逆に生の事を考えてみると、生き方も違ったものが出てくるのでは・・・

## \* 生きる力を与えてくれるもの

アウシュヴィッツで 600 万人のユダヤ人が処刑されたという極限状態の中で自殺したり反抗して殺されたり栄養失調で死んだり、それでも生き延びた人が書いた「死と霧」みすず書房・フランク著～真っ赤な大きな夕日が今にも沈もうとする時は本当にきれいだなあ！と心の底からいえる人・感じる事が出来る人、音楽に耳を澄ます人、恐怖や怒りに捕らわれて自分を見失わない人

## \* 健康に対する自分なりの努力～手足・指の運動

健康とは宇宙の神秘に対して人間の知恵は遠く及ばない、科学や医学で理解できたことは自然界の百万分の一位なもの、従ってその様な段階の科学・医学の判断で自分のことを100%任せるのは、むしろ学問・真理に対する冒瀆であろう、自分の責任に於いて自分の健康は管理すると決心して今の自分と向き合う事 20 年にしてやっと**自分の体の信号を聞き分けられる**ようになった。

## \* 悲しみに浸るといふことは

NHK がアメリカの医科大学で行われた実験を放映した「**心の底から楽しい・うれしいと思うと細胞は活発に活動して自然治癒力が高まる**」ということを目の前で見せられてビックリした。

それよりも放映後も続けられた実験で、**過去に体験した最も悲しいことを回想すると自然治癒力は劇的に高まったこと**です、この結果、人は悲しいときには人はそこから抜け出すことなくしっかりと受け止めて、心の底から悲しむ・涙する、そのことが良い結果を生み出す逆に悲しいことを悲しまない方が不健康であると思知らされた。

## \* グローバルスタンダード

学校に行く・就職することの意味は「自己成長だけでなく自己と社会とのかわりを持ち成長すること、自己を世界中に広げていく為の創造力や

視野を持つこと」～ネパールでは1年間300円あれば一人の小学生が学校に通える、だからその奨学金を出す運動もある。

\* **今までの価値観を全てご破算に**

大学の同窓生が経営する会社では(大手一流メーカーの代理店)終身雇用しない、いつでも必要がなくなったら辞めてもらう、給料は男女・年齢に関係なく、全員能率給ボーナスなし・定昇・退職金なし、その分毎月の売り上げ・利益に応じて配分・社長も例外ではない、従来のようにその会社の社員という考え方はますますなくなり、こうした時代には「丈夫な体・心・信念・ポリシー」と「経済的基盤」～恒産無ければ恒心無し、が頼りになり全て自己責任。

\* **年を重ねるごとに豊かになるもの“知恵”人間的ふくらみ**

自分の心の中で思っていることを周りの人に迷惑が掛からないなら・否少し位いいから自分で責任が持てるなら正直に実現していくのが人生であり運命と思われる→年とともに肉体は衰えても知恵は限度がないから若いときでできなかった夢も実現が可能となる。

\* **自己責任「諸君」下田治美**

頭痛が取れないので検査を病院で受けたところ「脳梗塞の気配があるので手術を、と言われびっくり病院回りして日本の医療がいかにも人間を無視したものであるかと、うそ寒くなった」と

\* **大河の一滴**

プラス思考だけでは人生の本当の喜びは絶対に訪れてこない“愛しい妻子・友人・先生・社会に期待するな、人は必ず老い一人で死ぬ、人生は東の間と覚悟せよ、まったく期待しないでいても何か小さな喜びにあったなら、そのことを**喜び！記憶し！感謝すること！**”だ

( 完 )